早稲田大学　教育・総合科学学術院　教職支援センター

2021年度
教職課程
履修の手引き

2021

図書館司書
学校図書館司書教諭
博物館学芸員
社会教育主事
社会福祉主事

メールや電話で問合せする前に

（お願い）疑問点の多くは本冊子を読むことで解決することがほとんどです。本当に困っている学生さんにスタッフが対応できるようにみなさんのご協力をお願いします。

分からないことがあったら… → まずは本冊子で確認！ → それでも分からなければ以下へ相談！

相談内容	本冊子ページ	相談先
免許・教科の種類	☞ P.6 ～ 12	所属学部・研究科事務所
教員免許状取得のための履修方法	☞ P.13 ～ 33	
卒業後の教員免許状取得（科目等履修生制度）	☞ P.65	
証明書の発行	☞ P.63・64	
その他資格（図書館司書、博物館学芸員等）	☞ P.75 ～ 99	
介護等体験、教育実習	☞ P.45 ～ 57	教職支援センター（16 号館 2 階） 原則として質問・相談はメールにて受け付けます。
授業・試験等について	☞ P.38 ～ 42	
教育インターンシップ，教育ボランティア	☞ P.58・59	
教員免許状申請	☞ P.60 ～ 62	
科目登録	☞ P.34 ～ 36	MyWaseda「★成績照会・科目登録用メニュー」上の Web 科目登録の問合せフォームより問い合わせてください。
教員採用試験	☞ P.68 ～ 72	教員就職指導室（14 号館 202 号室）

早稲田キャンパス MAP

教職支援センター
16 号館 2 階
教育・総合科学学術院事務所内
Email: kyousyoku-office@list.waseda.jp
Tel: 03-3232-3599

■開室日と時間は web ページで確認してください。
■レポートボックスについて（☞ P.39）

教員就職指導室
14 号館 2 階 202 号室
Tel: 03-3203-0921

■開室について（☞ P.66 ～ 67）

早稲田大学教育・総合科学学術院
教職支援センター

2021年度

教職課程履修の手引き

「教職支援センター」から

若林　幹夫
教職支援センター所長（教育・総合科学学術院長）

早稲田大学で教員を目指すということ

早稲田大学の教旨は「学問の独立」と並んで、「学問の活用」と「模範国民の造就」を謳っています。これら三つの言葉の意味はさまざまに解釈することができますが、学校教育が「学問の活用」と「模範国民の造就」のあり方の一つであり、そのためには時の権力や時勢に左右されない「学問の独立」が重要なことは言うまでもありません。本学創設者の大隈重信がこの教旨を、早稲田大学創立 30 周年記念式典で宣言したのは 1913 年ですが、中等教育学校教員養成のための高等師範部が早稲田大学に設置されたのは、それよりも 10 年前の 1903 年、東京専門学校から早稲田大学へと改称された翌年のことでした。このように、早稲田大学はその歴史の早い時期から、大学における高等教育や学術研究だけでなく、中学・高校等での教育を重視してきました。

1949 年、高等師範部の伝統を引き継いで開設された早稲田大学教育学部は、「教育学部に教職課程を置く」とする早稲田大学学則に基づき、全学を対象とした教員養成課程を半世紀以上にわたり担ってきました。しかしながら、近年の教職課程をめぐる国のあいつぐ改革や、教育をとりまく社会的諸環境の変化、それにともなう多方面との連携・協力の必要性の高まりのなかで、学部・大学院における教員養成カリキュラムを統括し、実習校や早稲田出身の教育界関係者とより緊密に連携できる体制をつくる必要から、2016 年からは教育・総合科学学術院の下に教職支援センターを置くことになりました。教職支援センターは全学の教職課程を統括すると共に、教員経験豊かな教員就職アドバイザーを擁する教職就職指導室をもち、また早稲田出身の各地の教員の組織である「地区稲門教育会」との連携・交流のための「稲門教育会」（会長は早稲田大学総長）の事務局としての機能も果たしています。

早稲田大学はこれまでも、教科に対するすぐれた指導力をもち、学級・学校運営のためのリーダーシップを発揮することのできる教員を、教育界に数多く送り出してきました。今日、学校と教員をとりまく状況は、少子化、国際化、情報化、教員の働き方改革、さらには新たな感染症の流行などにより、これまでとは大きく変わろうとしています。それは、進取の精神と柔軟性をもった、新しい教師像が求められる時代でもあるということです。

教職課程を履修する皆さんには、早稲田大学という自由な学苑での学びと経験を活かし、先輩たちがこれまで培ってきた伝統を、新たな未来へと繋いでゆく早稲田教育界の一員となるべく、真摯かつ誠実に履修に取り組んでもらいたいと思います。

「教職を志す」みなさんに

藤井　千春
教職支援センター副所長（教育・総合科学学術院教授）

私立大学の中での早稲田大学の強さには理由があります。その一つは、1903（明治 36）年という早い時期に高等師範部を設置して、私学として独自の中等教育教員の養成を開始したことです。そして、高等師範部の卒業生が中等教育学校の教員となり、「模範国民の造就」という本学の教旨を全国各地に伝播しました。それにより我が国の中等教育界における本学卒業者の勢力を確立しました。また、高等教育への進学希望者に全国各地で本学の存在を宣伝しました。

この点で、私立大学としての本学の教職課程は、学校教育を通じて本学の理念を全国に伝道するというミッショナーの育成と、高校生たちに本学への入学を勧誘するというリクルーターの育成という、二つの役割を担ってきました。

皆さんの中にも、きっと中学校生や高校生のとき、本学出身の教員に出会い、その教員に憧れて本学への進学を決意したという人がいることでしょう。その先生の語る学生時代の話に魅かれて、本学での大学生活への思いを膨らませたのでしょう。

もちろん皆さんが教員になって出逢う生徒たちは、大学に進学する生徒たちだけではありません。しかし、皆さんは、例えば「仲間とあれこれと議論することが好きである。また、意見の異なる人を否定したり、排除したりすることなく、積極的にお互いの違いから学び合うことを楽しむ」という、早稲田大学の伝統的なコミュニケーション能力の高い学生気質を、学校の様々な活動の中で生徒たちに伝えることができます。それが立憲民主主義を支える「模範国民の造就」という、本学が掲げてきた理念を広めることなのです。早稲田大学で学ばなくても、早稲田大学を実質的に学んだ人々を増やすことができます。

平成 30 年告示の新学習指導要領（中学は平成 29 年）では、その前文で「持続可能な社会の創り手」を育てることが、これからの学校教育の役割であると示されています。そのためには、「自分のよさを認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら多様な社会的変化を乗り越え」るための「資質・能力を育む」という教育活動が求められています。つまり、「探究」を原理として、学習活動を「主体的・対話的で深い学び」として指導・支援することが示されています。早稲田大学の学生たちの伝統的な気質を生かしたような教育活動が必要されているのです。

全国各地の学校では、「熱いハート」の稲門教師たちが多数活躍しています。生徒たちの意欲を引き出し、生徒たちに達成感・成就感を生み出す教育活動に、全力で取り組んでいます。今、皆さんが持っている教職への憧れを大切にし、それが教職課程の学修を通じて確かなものへと成長していくことを心より期待しています。

教職課程履修の手引き　目次

早稲田と教職 1

教員への道 5

Ⅰ　教員免許状とは　6

教員免許状とは 6

取得できる教員免許状一覧 8

取得できる教員免許状一覧（新課程） 8

取得できる教員免許状一覧（旧課程） 10

教職課程認定を一部または全部取り下げる学部・研究科 12

Ⅱ　教員免許状取得要件　13

教員免許状取得要件 13

基礎資格 13

単位修得要件 13

履修方法（新課程・2019 年度以降入学者） 15

履修方法（旧課程・2018 年度以前入学者） 16

教育職員免許法及び同法施行規則改正後の変更点 17

Ⅲ　教職科目一覧・履修方法　18

教育学部に開設する教職課程科目一覧（新課程） 18

教育学部に開設する教職課程科目一覧（旧課程） 20

教科に関する専門的事項（新課程）／教科に関する科目（旧課程） 22

教員免許取得までの重要な手続きチェックリスト（2019 年度以降入学者） 23

履修モデル 25

教職課程科目履修ルール 26

Ⅳ　科目登録から成績まで　34

科目登録 34

授業時間割 37

授業 38

試験・レポート・成績 40

休学・留学する場合の留意点 43

Ⅴ　介護等体験　45

介護等体験……45

Ⅵ　教育実習　50

教育実習……50
学校現場での体験……58

Ⅶ　教員免許状申請　60

教員免許状申請……60
証明書発行……63
学部卒業後の教員免許状取得方法（科目等履修生制度）……65

Ⅷ　教員就職　66

教員就職指導室……66
公立学校への就職……68
私立学校への就職……71
合格者からの声……72
教員就職が決まったら……73

Ⅸ　その他　75

図書館司書関連科目（文学部・教育学部科目）……75
学校図書館司書教諭関連科目（教育学部科目）……78
博物館学芸員関連科目（文学部・教育学部科目）……81
社会教育主事関連科目（文化構想学部・文学部・教育学部科目）……85
社会福祉主事……88

早稲田と教職

Interview

早稲田と教員就職

“早稲田で教員就職を目指す”とはどういったことでしょうか？　今井信一先生は本学卒業後、教員や教育委員会、管理職を歴任するなどのキャリアを重ね、現在、教員就職指導室アドバイザーとして教員就職を目指す学生を日々サポートしています。様々な経験とともに多くの教員、学生を見てきた今井先生の視点から、「早稲田と教員就職」について語ってもらいます。

■これまでの経歴

私は 1984 年の 4 月に神奈川県に採用され高等学校に着任しました。採用試験を受けるまでに回り道をした関係で、ストレートで採用される人よりも4年遅れてのスタートでした。こうした事情はあったものの、退職までに 34 年間県の職員として神奈川県の教育に携わりました。

教員になった当初は、生涯教壇に立ち続けるという人生を想像していましたが、20 年目の年に教育委員会への転勤を命ぜられ、教育行政の仕事を経験することになりました。この時点でも、教育委員会の経験で得たことを今後の学校での仕事や授業に活かしていこうと考えていました。しかし、教育委員会での勤務が予想に反して長くなり、ここを離れる時には管理職としての責任を負う立場になっていました。振り返ってみると思いがけない道を歩んできたと思いますが、その一方で多くの教育関係の職場で経験を積むことができたことに感謝しています。結局、教壇を離れた後、教育委員会で通算８年間（途中1年間は高校に転出して教頭職を経験）勤務し、その後に校長として２校６年間勤めました。

2018 年より、教員就職指導室アドバイザーとして、教員を目指す学生のみなさんをサポートする機会をいただき、素敵な同僚・スタッフの皆さんと日々楽しく仕事をさせてもらっています。

■本学出身教員の強みは何ですか？

変化の激しい時代の中で、ともすると人間らしい心が失われ、傷つく子どもたちが増えてきています。いじめ、不登校、複雑な家庭環境、生きがい・学習意欲の喪失等様々な課題が教育現場にあります。

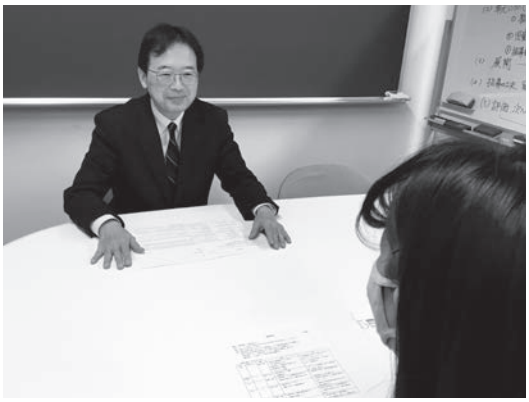
教員就職アドバイザー：今井　信一　先生

Profile

神奈川県出身。早稲田大学教育学部地理歴史専修卒業後、神奈川県立の高等学校社会科の教諭として 19 年間勤務。その後、県教育委員会で教育行政に携わり、県立海老名高等学校長を最後に退職。早稲田大学教員就職指導室アドバイザーとして、教員就職をめざす学生の指導あたっている。

今、求められているのは、苦しみもがきながらも、人間らしく成長したいと願っている子どもたちの心に寄り添い励ましていくことができる人間性豊かな教師です。「早稲田精神」の根本はヒューマニズム。時代が求める教師像に合致する「人間的な魅力」こそ本学出身の教師の強みです。そして、在学した時代は違っていても青春時代を早稲田で過ごした仲間としての絆によるネットワークも、大きな強みではないでしょうか。そのネットワークは普段はソフトで緩やかなものですが、時に応じて強固なものとなり心のよりどころとなることでしょう。

私が所属していた神奈川県稲門教職会の仲間で言われていたのは、早稲田は「群れない」あるいは「徒党を組まない」ということです。早稲田大学出身の教員は、一人ひとりが豊かな資質能力をもっているので、徒党を組む必要はほとんどないとい



うことだと思います。ただ、時に応じて早稲田のネットワークを生かして互いにサポートしあい、困難に立ち向かうことができる関係であってほしいと願っています。

■教員をめざす早大生に特徴はありますか?

とにかく熱い情熱と使命感をもっている魅力的な学生たちですね。昨今、教員の長時間労働をはじめとした教育現場の厳しさが取り上げられていますが、私が、「それでもあなたは、あえて“火中の栗を拾う”といった困難もいとわずに教員をめざしますか?」と尋ねると、みんな「はい」と答えます。その目の輝きと、「教育は未来を創る仕事ですから。」という言葉には、私の方が励まされます。

そして、一人ひとりが教育に対してしっかりとしたビジョンをもって臨んでいます。それは、学生時代の勉学だけでなく、継続して取り組んできたさまざまな豊かな活動経験の中で培われてきたものなのでしょう。好奇心旺盛で、常に真剣に考えを深め、自分の考えをはっきりと主張できる学生が本当に大勢います。教育現場でのボランティアにも積極的に取り組み、すでに教育現場で頑張る覚悟ができている学生も少なくありません。

■これから教員をめざすうえで必要なことは何ですか?

まず、教師という仕事の意義と責任について、しっかりとした考えを持ってください。これからの世の中を創る子どもたちの、成長と人格形成に携わる仕事の重みを考えて、採用試験に臨みましょう。教員にとっては、たくさんの児童生徒の中の一人であっても、その子にとっては一生に一度の在校期間です。その仕事の責任と、やりがいについてしっかりと考え、一度教師をめざしたならば、全力で自分を磨いてください。「学び続ける教師が、学び続ける子どもを育てる」という言葉があります。年齢はいくつになっても、学び続ける姿勢があれば、だれもが「生涯青春」です。そのことを、自らの生き様で子どもたちに示すことができるよう、しっかり学び続ける姿勢を貫いてください。そして、進んでたくさんの人々とふれあい、人間の素晴らしさがわかる真に「人間好き」の教師をめざしてください。また、変化の激しい時代、あふれる情報の中から正しい道を見極める力を磨くためにも、常日頃から、社会の動きについても敏感であるべきでしょう。

■教員をめざす早大生へのメッセージをお願いします。

まずは、数ある仕事の中から「教師」という仕事を選んでくれてありがとうと言いたいですね。私が教員として経験した世界に、学生のみなさんが入って来てくださること、そして、喜びや苦労を分かち合えることは本当にうれしいことです。学校ではたくさんの児童生徒がみなさんの着任を心待ちにしています。答えが見いだせず深い悩みを抱いた子どもたちに、寂しい思いに悩むひとりぼっちの孤独な子どもたちに、そして日々成長しようと頑張っている子どもたちに、あなたの優しさや知性を届けて導いてあげてください。一人でも多くの早稲田大学卒業生が、教師として「未来を創造する素晴らしい仕事」に携わり、活躍されますよう祈っています。

本学出身の先輩教員は全国各地で様々に活躍しています。働く学校や年数は違えど、早稲田で教員教職を目指した原点は同じです。先輩教員として、早稲田の先輩として、教員の魅力を語ってもらいます。

中野区立平和の森小学校　教諭　石田　泰玖磨　先生

■教員を目指した理由

私が教員を目指した理由は２つあります。

１つ目は日本の未来を創る仕事、特に教育にかかわる仕事をしたいと考えていたからです。大学時代に社会教育や国際教育、学校教育など様々な視点から「教育」について学び、これからの日本の未来を創っていく上で「教育」が特に大事だと考えました。その上で、教育の最前線ともいえる公教育、つまり学校教育の現場に飛び込んで自分の経験を積むとともに未来を創る子供たちと向き合おうと考えました。

２つ目は「人と関わることが好き」という自分の性格が教員に向いていると考えたからです。教員は子供だけではなく、保護者、同僚の教員、地域の人など様々な年齢、立場の人と関わることが求められます。様々な人と関わり、話し、関係を築いていくことが好きであった自分の性格と合っているなと感じたので教員の仕事を目指しました。

■教師のやりがい・魅力

小学校教員最大の魅力は「裁量権の大きさ」にあると思います。言い換えると自分の考えややりたいことが自分のクラスで反映させやすいということです。小学校は担当クラスの授業をほとんど全教科持ちます。昨年度1年生を担任していた時は週２５コマのうち音楽の専科2時間以外はすべて私が授業をしていました。そのため、１日の中で子供と過ごす時間も多くなると同時に様々な教科から子供へのアプローチをかけることができるので、自分の考えを教育に大きく反映することができます。私は学級を経営していくうえで子供に「自分で考えて行動すること」を何年生であっても大切にするようにしています。その考えを一日の多くの時間で子供の姿を見取りながら、様々な場面で伝えられるので、年度の途中からは子供たちの間でトラブルが起きた際、「先生はいなくても自分たちで解決する」という声が1年生から聞けたときには、自分の考えが子供に伝わっているなと感じ嬉しくなり、やりがいを感じました。

ほかにも、小学校は6年間という長いスパンで子供を見るので、大きく成長していく様子を見られるのも魅力の一つです。今担任している５年生は、私が学生ボランティアで関わっていた1年生のころから様子を知っているのですが、１年生のころは、自分の身支度さえも出来ない、ノートの書き方もわからない状態でした。そこから、今では、自分たちで話し合いをしながら教師とともに授業を創り上げたり、委員会活動では、学校全体のことを考えて想像力豊かに活動をしたりしている様子を見ていると、大きくダイナミックに育っていく子供の成長のすばらしさを直接感じられるのは小学校の良さであるなと感じています。

■早大生へのメッセージ

教師を目指す早大生へ伝えたいことは２つあります。

１つ目は自分の強みや得意なことを理解し、「個性」を大切にする教員を目指して欲しいです。大学時代を振り返り、早大生の良いところを考えると、私は、早大生皆誰しもが自分の強みや良さを生かした「個性」を持っていることにあると思います。その「個性」は教育現場では特に大事な資質です。なぜなら、教師ほどそれぞれの個性や考えが認められ、求められる仕事も他にはないと思うからです。そして、きっと自分の「個性」を出せる教師は子供の多様な「個性」も認められる教師にもなれると私は思います。強烈な「個性」を持った早大生が教育現場で沢山羽ばたいてほしいなと願っています。

２つ目は「熱意をもって変える気持ち」を持ってほしいことです。今、世間で「教師の仕事は大変」と言われているように、確かに教師に求められるものは増えています。しかし、自分の意識で「変えたい」という気持ちさえあれば、業務効率化や PC などを活用した時間短縮を図ることで仕事のあり方はいくらでも変えることができます。また、教師の仕事は仕事の進め方に限らず、いろいろな場面で熱意さえあれば様々なところで変えられます。特に、今後、教育現場は指導要領の改訂とともに、教育のあり方が大きく変わっていくと考えられます。その中で、変化に対応し、率先して変えていける人に教師になってほしいと思います。そして、未来の日本の教育そのものをも変革できるような早大生が教師になってくれることを願っています。

Profile

出身高等学校：兵庫県立神戸高等学校
早稲田大学出身学部：早稲田大学文学部教育学コース卒業後、
早稲田大学教育学部初等教育学専攻学士入学、卒業
現在の主な担当：５年生
教科：全科

早稲田と教職

Topics

早稲田の強み！

開かれた教員養成機関　―開放制の教職課程―

“開放制”は卒業するために教員免許状の取得は必須ではないことを示します。どの学部でも教員を目指したい学生には広く門戸が開かれているため、諸活動を通して様々な進路を目指す学生から刺激を受けることにより、魅力的な教員養成が行える環境があります。

教員になるまでの手厚いサポート　―教員就職指導室―

学校長など教員経験の豊かな 3 名の「教員就職アドバイザー」が、面接、論文指導などを通じて教員就職を目指す学生を日々支援しています。（☞ P.66 ～ 67）

教員採用試験対策イベント　―教員就職指導会―

教員採用試験対策のためのイベントを年 7 回行っています。教員就職アドバイザーによる解説の他、校友である現職校長や教員をお招きし、最新の教員採用試験情報提供や教員就職のための具体的な指導を行います。（☞ P.67）

現場での体験を積む　―インターンシップ・教育ボランティア―

普段の学校現場を体験できるように、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での学習補助等を通した貴重な現場体験を行える機会があります。（☞ P.58 ～ 59）

全国各地における教員の交流　―稲門教育会―

本学卒業の教員は全国各地で活躍しており、卒業後も、「稲門教育会」と呼ばれる組織を通して、関東に限らず全国各地で交流が行われています。（☞ P.73 ～ 74）

教員への道

みなさんは教員になるためにはどれくらい準備や手続きが必要か知っているでしょうか。教員免許状を取得すればすぐ教壇に立てる、あるいは大学で必要単位を修得すればなれる、という簡単なものではありません。以下に教員となるまでの道のりを 4 つのステップに分けて説明しますので、おおまかなスケジュールを把握してください。

教員への道のり

それぞれのステップの中には細かい手続きや注意すべき点があります。「資格だから一応とっておこう」という安易な気持ちで教員免許状取得を目指すのではなく、自分が将来何になりたいのかを真剣に考えた上で、教員を目指してください。

ステップ 1 全体のスケジュールを把握し必要な科目を履修する ☞ P.13 ～

教員免許状取得に必要な科目は免許教科ごとに定められています。学期ごとに科目登録（自分の登録したい科目を申請すること）が必要ですので、科目登録前に自分がどの科目を履修する必要があるか確認し、登録漏れがないようにしましょう。4 年間のスケジュールを 1 年次から立てておくことも重要です。

ステップ 2 教育実習・介護等体験を行う ☞ P.45

このステップでは科目履修以外に社会福祉施設や特別支援学校での介護等体験や小・中・高等学校での教育実習を行う必要があります。どちらも実施前年度までに完了しておくべき事項がたくさんあります。事前に本冊子を読んでしっかり準備しましょう。

ステップ 3 教員免許状申請を行う ☞ P.60

教員免許状を取得するためには、教育委員会へ免許状申請を行う必要があります。在学中であれば、本学で取りまとめて教育委員会に申請（一括申請と言う。）し、卒業と同時に免許状を受け取ることができます。（学生が個人で教育委員会へ申請することも可能です。）

ステップ 4 教員採用試験に合格する ☞ P.68

教員として教壇に立つには、教員採用試験を受け、合格しなければなりません。公立学校・私立学校で選考内容が異なります。教員としてどこで働きたいのか考え、早い段階から準備をしましょう。教員採用試験のサポートは教員就職指導室（14 号館 2 階 202 号室）で行っています。